

たより



平成 24 年 2 月 10 日
伊勢市教育研究所
伊勢市小俣町元町 540 番地

E-mail : kyo-kenkyu@city.ise.mie.jp

<http://www.ise-mie.ed.jp/~kenkyusyo/cgi-bin/wiki/wiki.cgi>

研修講座を終えて

研究・実践報告をしていただいた先生方、参加いただいた先生方、ありがとうございました。実り多い研修講座となりましたこと、お礼申し上げます。

12月1日(木) 有緝小学校 食育研究会

研究テーマ「わかる・つながる・高め合う子どもをめざして」

～地域にある食に出会い、人に出会い、自分に出会う～

有緝小学校において、課題研究プロジェクト「食育研究会」が開かれました。

1年生、3年生、5年生の授業公開、全体会での研究報告、分散会での研究協議が行われ、「健康教育につながる食育」、「地域に学び地域とつながる食育」、「伝統文化につながる食育」、「主体的な学びと食育」を大きな柱として取り組んだ実践や成果が報告されました。

公開授業

学年	授業者	教科	単元名	場所
低学年	1年2組 阪村 優子	生活	むかしにタイムスリップ！ ～おやつのだび～	1年2組教室
中学年	3年 柴田 多嘉代 木下 和久 中村 秀子	総合的な 学習の時間	大豆ものしり博士になろう	体育館2階 ギャラリー
高学年	5年2組 工藤 朝子	総合的な 学習の時間	日本食を見直そう！	5年2組教室

【 授業の様子 】



ゲストティーチャーを
招いての授業(1年生)



大豆について調べたことを
発表しあう授業(3年生)



スペシャル味噌汁レシピを
発表しあう授業(5年生)

【参加者の感想】

食育を通して時代背景や様々なことを学べる食育のすばらしさを改めて感じる事ができました。

子どもの実態と地域の題材を結びつけ、食育の授業を組み立てていく取り組みは素晴らしいと思いました。全ての子どもが食や料理に興味を持ち、家でも作ってみようになる・・・そんなふうになればいいですね。ありがとうございました。子どもたちが瞳をキラキラさせて素敵な顔で授業を受けていたのが素晴らしいと思いました。



校内掲示(取り組みの様子)

12月14日(水) 中学校理科でのICT活用公開授業



授業者 伊勢市五十鈴中学校 教諭 勝田 恭好
助言者 明倫小学校 校長 出口 晃
単元 第1学年「いろいろな物質とその性質」



ICTが、授業の様々な場面で、効果的に使われた授業が提案されました。

実験方法や器具の扱い方などを事前にビデオ撮りして、電子黒板で映し出すと、生徒たちは強い関心を示しました。また、手元の操作やメスシリンダーの目盛りの読み方などを拡大した映像で見せることにより、1回の説明で実験の要領を理解できたようでした。各班の実験結果(数値)を入力し、グラフに変換することで、得られた結果を分析したり、考察したりする場面もありました。

【参加者の感想】

授業者の熱心さに感動しました。アイデアたっぷりの提案、授業でした。ICTの適切な使い方、授業のねらいとしてICTの有効活用について等、考えることができる授業及び協議会に感謝しています。

とても分かりやすい授業でした。電子天びんとメスシリンダーの使い方もICTを用いることにより、よく分かった。

公開授業は理科でしたが、研究協議では、他の教科のソフトや実践例を紹介してもらったので、理科以外の先生にも参考になった。ICTを授業で活用するためには、機器の準備に時間がかからないような設備が必要だと感じた。

1月11日(水) 特別支援学級での外国語活動

報告者 伊勢市教育研究所 研修員 北岡 美代子
研究協力校 明野小学校
助言者 日本小学校英語教育学会三重県理事 鷹巣 雅英



研究協力校の特別支援学級で、児童のニーズに合わせた指導法を研究しながら、取り組んできた外国語活動における成果や児童の成長の様子が、授業を録画したVTRを用いて報告されました。

助言者の鷹巣先生からは、「将来に生きて働く力となるような外国語活動の在り方」として、外国語活動で児童につけていきたい力、指導の工夫、活動の設定方法等について、具体的に教えていただきました。

【 参加者の感想 】

外国語活動の実践は、初めて見させていただきましたが、子どもたちがあんなにも生き生きと活動するとは思っていませんでした。

北岡先生の実践報告では、子どもたち一人ひとりのニーズに応じた教材の工夫、一人ひとりが活かされた活動の場の保障が大切だとつくづく感じさせられました。外国語活動が特別支援学級の子どもたちにコミュニケーション能力の素地を培っていくのに、とても効果的だと改めて思いました。

ありがとうございました。助言者の先生から明確な示唆をいただき、「一つひとつの言葉を大切にしていきたい。」

「今後、自分を一層磨いていきたい。」と思いました。

日頃、意識していなかったことや今まで気づいていなかったことに気づき、いろいろな視点から自分の授業を振り返ることができる講座となりました。



(鷹巣先生のお話)

伊勢市の「子どもリレーションシップ総合推進事業」のとりくみ

「子どもリレーションシップ総合推進事業」では、子どもたちのよりよい人間関係をつくるために、子どもの日常生活の実態を把握し、いじめを未然に防止することをめざしています。そのために、子どもたちの現実の人間関係を的確に把握することは欠かせません。より客観的に把握するため、研究推進モデル校で hyper-QU(ハイパー・キュー・ユー)を実施しています。Q-U(楽しい学校生活を送るためのアンケート)は、子どもたちの学校生活での満足度と意欲、学級集団の状態を調べる質問紙で、早稲田大学の河村茂雄先生が開発しました。学級集団の状態を定期的にQ-Uで検査して現状を客観的に把握し、学級経営の展開の仕方を工夫することで、よりよい学級集団を育成していこうというものです。

さて、学校では卒業式・修了式に向けて、1年間の成長を振り返ったり、子どもたちに、達成感や進級・進学に対する心構えや希望を持たせたりする取り組みをされていることと思います。研究所には、学級の状態に合わせ、良い授業を生み出す授業スキルや指導の具体例が分かりやすく示された本がたくさんそろっています。どうぞお気軽にお立ち寄りいただき、ご利用ください。

例えば、以下のような本があります・・・

- ・「授業スキル小学校編、中学校編」河村茂雄・藤村一夫 編集(図書文化)
- ・「学級崩壊予防・回復マニュアル」河村茂雄 著(図書文化)
- ・「Q-U式脱・小1プロブレム 満足型学級育成の12か月」
- ・「Q-U式ギャングエイジ再生満足型学級育成の12か月」
- ・「Q-U式プレ思春期対策満足型学級育成の12か月」
河村茂雄 藤村一夫 浅川早苗 編著(図書文化)
- ・「授業づくりのゼロ段階【Q-U式授業づくり入門】」河村茂雄 著(図書文化)

元教育長の松村勝順先生からも、学級づくりや人権学習に関する本を、たくさんご寄付いただきました。こちらも、あわせてご利用ください。

平成23年度研修講座アンケート結果について

研修講座についてのアンケートにご協力いただき、ありがとうございました。ご意見・ご要望をもとに、来年度の研修講座を企画させていただきます。アンケート結果につきましては、研究所のホームページに掲載いたしましたので、ご覧ください。(ログインし、「研究研修分野」
「平成23年度研修講座アンケート集計結果」をクリックすると、ご覧いただけます。)

伊勢市教育支援センター「NEST」から

今回は、「NEST」の普段の様子について紹介します。

現在、十数名の通級生が自転車や通級用のバス、保護者の送迎など、それぞれ自分にあった通級方法で通ってきています。

午前中はみんなでトランプやカードゲームをしてコミュニケーションをとり、楽しい時間を過ごしています。最初はあまり話をせず一人で居ることが多かった通級生も少しずつみんなに声をかけてもらい、ゆっくりですが一緒にいろいろなことができるようになってきています。学習時には自分にあった課題に、指導員と共にそれぞれのペースで取り組んでいます。

年明けには自分の好きな言葉を色紙に書初めしました。書き出すまでに時間がかかりましたが、それぞれの思いが表現でき、素敵な作品に仕上がりました。普段あまり自分の思いを口にしない子どもたちだからこそ、書いた言葉に意味や思いがあるのだということや、頑張ろうとしている前向きな気持ちが伝わってきました。



体験活動では「みかん狩り」、「まなび高校でのトンボ玉づくり」、「講師の先生を招いてのクリスマスリース作り」、「沼木教室での農作業やたこ焼き作り」、「陶芸教室」など様々な体験をしました。通級生は作品を作り上げる達成感や充実感を味わい、少しずつ自信をつけています。

日常の活動に加え、これらの体験活動では、笑顔が見られるようになったり、通級生同士の心の触れ合いがますます深まったりと、大変有意義な活動になっています。

また、今年の通級生は体を動かすことが好きな子どもたちが多く、普段からバドミントンや卓球などのスポーツを通して触れ合っています。運動する機会が少ない子どもたちにとって、汗をかいて他の通級生と触れ合い、体を動かすことのできる貴重な時間になっています。随分上達し、体力もついてきています。

中学3年生は、高校受験に向けて、作文や面接練習にも取り組んでいます。自己表現や話すことが苦手な通級生にとっては大変なことですが、何度も繰り返し練習する中で、自分の考えや思いを表現できるようになってきました。

「NEST」は、「学校へ行きたい。」または「行かなければならない。」と思っても、行くことができずに悩んでいる児童生徒・保護者のためにあります。子どもたちは不登校に悩みながらも、少しずつ前へ進もうと頑張っています。学校生活への復帰を支援するため、適切な指導・援助を行っていきけるよう、通級生の保護者や学校関係者の皆様と、より連携を深めていきたいと思っています。

通級生の作品

クリスマスリース



トンボ玉



陶芸作品

